

平成 29 年度  
日本商工会議所

---

# 第148回

## 簿記検定試験

3 級

【解答・解説】

この解答例は、当社で作成したものです。  
解答中に記載してある配点は、当社で考えた予想配点です。

**LEC**東京リーガルマインド

著作権者 株式会社東京リーガルマインド  
(C)2018 TOKYO LEGAL MIND K.K., Printed in Japan  
無断複製・無断転載等を禁じます。  
有効期限 2018年2月25日/2018年6月9日



0 000212 180958

BL18095

## 第 148 回 解 答

### 第 1 問 (20 点)

	仕		訳	
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	仕 入	130,000	受 取 手 形 当 座 預 金	100,000 30,000
2	買 掛 金	500,000	売 掛 金 当 座 預 金	100,000 400,000
3	有 価 証 券	490,000	現 金	490,000
4	土 地	150,000	現 金	150,000
5	借 入 金 支 払 利 息	730,000 4,000	当 座 預 金	734,000

仕訳 1 組につき 4 点。

### 第 2 問 (10 点)

①	②	③	④	⑤
引 出 金	850,000	2,000	仕 入	382,000

各 2 点。

第 3 問 (30 点)

残 高 試 算 表  
平成 29 年 12 月 31 日

借 方	勘 定 科 目	貸 方
393,000	現 金	
711,000	当 座 預 金	
331,000	受 取 手 形	
827,000	売 掛 金	
73,000	繰 越 商 品	
5,000	前 払 金	
1,200,000	備 品	
	支 払 手 形	370,000
	買 掛 金	535,000
	前 受 金	32,000
	所 得 税 預 り 金	7,000
	未 払 金	300,000
	備品減価償却累計額	567,500
	資 本 金	1,717,000
	売 上	2,770,000
1,602,000	仕 入	
2,000	発 送 費	
980,000	給 料	
90,000	支 払 家 賃	
75,000	水 道 光 熱 費	
9,500	( 貸 倒 損 失 )	
6,298,500		6,298,500

につき 3 点。

第 4 問 (10 点)

(1)

仕 訳 日 計 表  
平成 29 年 12 月 1 日

借 方	勘 定 科 目	貸 方
22,000	現 金	13,000
90,000	売 掛 金	
	買 掛 金	55,000
	売 上	100,000
	受 取 手 数 料	12,000
68,000	仕 入	
180,000		180,000

につき 2 点。

(2) 出金伝票 No. 202 および振替伝票 No.302 で記録された取引において仕入れた商品の金額

¥ (  )

# 第148回 解 答

## 第5問 (30点)

### 貸借対照表

平成29年12月31日

(単位：円)

現金	315,000	買掛金	640,000
普通預金	123,000	未払金	( 3,000 )
受取手形 ( 410,000 )		借入金	300,000
売掛金 ( 350,000 )		(未払)費用	( 7,000 )
(貸倒引当金) ( △ 7,600 )	( 752,400 )	前受収益	( 40,000 )
商品 ( 315,000 )		資本金	( 5,451,801 )
(前払)費用 ( 2,000 )		当期純(利益)	( 145,600 )
建物 ( 1,000,000 )			
減価償却累計額 ( △ 220,000 )	( 780,000 )		
備品 ( 450,000 )			
減価償却累計額 ( △ 449,999 )	( 1 )		
土地	4,300,000		
	( 6,587,401 )		
			( 6,587,401 )

### 損益計算書

平成29年1月1日から平成29年12月31日まで

(単位：円)

売上原価	( 3,940,000 )	売上高	4,782,300
給料	( 666,300 )	受取地代	( 480,000 )
支払手数料	80,000		
水道光熱費	( 82,000 )		
通信費	65,000		
旅費交通費	( 33,000 )		
減価償却費	( 100,000 )		
貸倒引当金繰入	( 2,400 )		
支払利息	( 8,000 )		
固定資産(売却損)	( 140,000 )		
当期純(利益)	( 145,600 )		
	( 5,262,300 )		( 5,262,300 )

□について3点。

## 【3級総評】

全体的には基本から標準レベルの難易度の問題でした。合格答練や問題集でアウトプット練習を本試験対策として行っていれば、第1・3・5問は、比較的スムーズに解答することが出来たと思います。ここで、しっかりと得点を積上げることができたかが最大のポイントです。第2・4問の内容もほとんどが基本レベルであったため、短時間で高得点をとれるかが問題でした。そのため、努力した結果が合格に結びつきやすい問題であったといえます。

簿記の学習では、仕訳、勘定記入、試算表作成、財務諸表作成が最重要論点ですが、日頃から、1年間の流れを意識しながら、仕訳・転記・集計をすることで、基本的な部分の理解をすることが重要です。

## 【解説】

## 第1問

仕訳に関する問題です。勘定科目の指定があるので誤字等がないよう、正確に記入するように注意しましょう。

## 1. 手形の裏書譲渡、小切手の振出し

仕入れの代金支払いのため、手形を裏書譲渡しているので、受取手形の減少として処理します。また、小切手の振出しは、当座預金の減少として処理します。

## 2. 買掛金と売掛金の相殺

当店は仙台商店に対して買掛金と売掛金の両方があるため、支払額と受取額を相殺したあとの残額のみを当座預金で受払いしています。本問では、買掛金が売掛金よりも多額なので、超過分の買掛金を支払って精算しています。買掛金支払いのために振出した小切手については、当座預金の減少として処理します。

## 3. 有価証券（社債）の購入

購入した社債の取得原価をもって有価証券を増加させます。

取得した社債の口数： $¥500,000 \div @ ¥100 = 5,000$  口

有価証券の取得原価： $@ ¥98 \times 5,000 \text{ 口} = ¥490,000$

## 4. 固定資産の購入

土地の購入に際して、建設会社に依頼していた整地作業の代金を支払っています。土地の購入に伴う付随費用は、土地の取得原価に算入するので土地の増加として処理します。

## 5. 借入金の返済と利息の支払い

借入金が返済によって減少します。また、100日分の利息は日割計算で求め、支払利息で処理します。

支払利息： $¥730,000 \times 2\% \times \frac{100 \text{ 日}}{365 \text{ 日}} = ¥4,000$

## 第 148 回 解 説

### 第 2 問

勘定記入に関する問題です。資本金・引出金に関する取引および決算仕訳について、日付順に仕訳・転記を考えながら解答します。

#### 1/ 1 開始記入

前期から繰越されてきた金額をもって、前期繰越の記入をします。

#### 3/ 5 店主の所得税の支払い

事業主が納付すべき所得税額は租税公課にはなりません。個人的な支出として引出金で処理します。

(借) 引 出 金	300,000	(貸) 普 通 預 金	300,000
-----------	---------	-------------	---------

#### 6/30 店主の個人的な事業用 I C カードの使用

事業用の I C カードに入金 (チャージ) したときに、仮払金で処理をしています。交通機関利用時に仮払金から旅費交通費へ振替えますが、店主が個人的に利用した分は費用にはならないため、個人的な支出として引出金で処理します。

〈入金 (チャージ) 時の仕訳〉

(借) 仮 払 金	×××	(貸) 現 金	×××
-----------	-----	---------	-----

〈 6/30 の仕訳〉

(借) 引 出 金	2,000	(貸) 仮 払 金	4,500
旅 費 交 通 費	2,500		

#### 10/20 自家消費

自家消費を行ったときは資本の減少取引に該当するため、仕入を取消し、引出金で処理します。

(借) 引 出 金	80,000	(貸) 仕 入	80,000
-----------	--------	---------	--------

#### 12/31 決算整理仕訳

a 引出金勘定の決算整理前残高を資本金勘定に振替えます。

(借) 資 本 金	382,000	(貸) 引 出 金	382,000
-----------	---------	-----------	---------

b 当期純利益を資本振替により、損益勘定から資本金勘定に振替えます。

(借) 損 益	850,000	(貸) 資 本 金	850,000
---------	---------	-----------	---------

上記の仕訳にもとづいて、問題用紙の資本金勘定と引出金勘定を埋めると次のようになります。

資 本 金				引 出 金			
12/31 引 出 金	382,000	1/ 1 前期繰越	2,500,000	3/15 普通預金	300,000	12/31 資 本 金	382,000
" 次期繰越	2,968,000	12/31 損 益	850,000	6/30 仮 払 金	2,000	/	
	<u>3,350,000</u>		<u>3,350,000</u>	10/20 仕 入	80,000		
					<u>382,000</u>		

第3問

残高試算表の作成に関する問題です。

解答手順としては、まず (B) 平成 29 年 12 月中の取引 の仕訳を行い、次に仕訳をもとにして、勘定科目ごとに (A) 平成 29 年 11 月 30 日の残高試算表に加減算して集計し、解答用紙の平成 29 年 12 月 31 日の残高試算表を作成していきます。

[平成 29 年 12 月中の取引]

1日	(借)	貸倒引当金	500	(貸)	売掛金	10,000
		貸倒損失	9,500			
4日	(借)	仕入	110,000	(貸)	前払金	15,000
					買掛金	95,000
7日	(借)	所得税預り金	6,000	(貸)	現金	6,000
8日	(借)	受取手形	100,000	(貸)	売上	270,000
		前受金	8,000			
		売掛金	162,000			
		発送費	2,000		現金	2,000
11日	(借)	水道光熱費	7,000	(貸)	当座預金	7,000
13日	(借)	現金	30,000	(貸)	前受金	30,000
15日	(借)	当座預金	170,000	(貸)	受取手形	170,000
18日	(借)	支払家賃	15,000	(貸)	当座預金	15,000
19日	(借)	買掛金	190,000	(貸)	支払手形	190,000
21日	(借)	給料	100,000	(貸)	当座預金	93,000
					所得税預り金	7,000
22日	(借)	支払手形	200,000	(貸)	当座預金	200,000
25日	(借)	現金	175,000	(貸)	売掛金	175,000
27日	(借)	備品	300,000	(貸)	未払金	300,000
29日	(借)	仕入	92,000	(貸)	買掛金	90,000
					現金	2,000

## 第148回 解説

### 第4問

仕訳日計表の作成と、記入された伝票から取引を読み取る問題です。

#### (1) 仕訳日計表の作成

仕訳日計表の作成では、日々の取引を記録した伝票を集計し、仕訳日計表に記入します。  
各伝票を仕訳の形になおすと、以下のようになります。

#### 〈入金伝票〉

No.101	(借) 現	金	10,000	(貸) 売	上	10,000
No.102	(借) 現	金	12,000	(貸) 受取手数料		12,000

#### 〈出金伝票〉

No.201	(借) 仕	入	5,000	(貸) 現	金	5,000
No.202	(借) 仕	入	8,000	(貸) 現	金	8,000

#### 〈振替伝票〉

No.301	(借) 売掛金(愛知商店)	90,000	(貸) 売	上	90,000	
No.302	(借) 仕	入	55,000	(貸) 買掛金(岐阜商店)		55,000

以上の仕訳を勘定科目ごとに集計し、それぞれ借方合計、貸方合計を記入した後、総勘定元帳へ合計転記していきます。(本問では仕訳日計表の作成のみが問われています。)

#### (2) 仕入れた商品の金額

出金伝票No.202 および振替伝票No.302 の仕訳より、仕入の金額を合計して、仕入れた商品の金額を求めます。

仕入れた商品の金額： $¥8,000 + ¥55,000 = ¥63,000$



第5問

財務諸表作成に関する問題です。収益・費用の勘定の決算整理後残高を損益計算書に、資産・負債・純資産の勘定の決算整理後残高を貸借対照表に記入します。財務諸表に記入するときは、仕訳で使う勘定科目と財務諸表上の表示科目の違いに留意しながら記入します。

決算整理事項等は次のとおりです。

1. 従業員が立替払いした費用の精算

従業員が自分で支払済みの旅費交通費を精算します。旅費交通費を計上した上で、翌月となる従業員への支払額は未払金で処理します。

(借) 旅 費 交 通 費	3,000	(貸) 未 払 金	3,000
---------------	-------	-----------	-------

2. 仮受金の精算・車両運搬具の売却

固定資産を売却した場合、売却代金と売却時点の帳簿価額との差額を固定資産売却損益とします。本問では、間接法で処理するため、車両運搬具と車両減価償却累計額を減少させますが、期末に売却しているため、当期分の減価償却費も計上します。また、売却代金受取時に、仮受金として処理しているため、仮受金を取消し、貸借差額を固定資産売却損とします。

〈売却代金受取時の仕訳〉

(借) 現 金	180,000	(貸) 仮 受 金	180,000
---------	---------	-----------	---------

〈仮受金精算の仕訳〉

(借) 車両運搬具減価償却累計額	80,000	(貸) 車 両 運 搬 具	480,000
減 価 償 却 費	80,000		
仮 受 金	180,000		
固 定 資 産 売 却 損	140,000		

減価償却費： $¥480,000 \div 6 \text{年} = ¥80,000$

売却時点の帳簿価額： $¥480,000 - ¥80,000 - ¥80,000 = ¥320,000$

固定資産売却損益： $¥180,000 - ¥320,000 = \triangle ¥140,000$  (売却損)

※ 固定資産売却損は、仕訳の貸借差額でも算定できます。

3. 売上原価の算定

期首商品棚卸高を繰越商品勘定から仕入勘定に振替えます。そして、期末商品棚卸高を仕入勘定から繰越商品勘定に振替えます。これにより仕入勘定の決算整理後残高は売上原価となります。

(借) 仕 入	300,000	(貸) 繰 越 商 品	300,000
(借) 繰 越 商 品	315,000	(貸) 仕 入	315,000

4. 建物の減価償却

(借) 減 価 償 却 費	20,000	(貸) 建 物 減 価 償 却 累 計 額	20,000
---------------	--------	-----------------------	--------

建物の減価償却費： $¥1,000,000 \div 50 \text{年} = ¥20,000$

5. 備品の減価償却

備品についてはすでに昨年度、耐用年数を経過し減価償却が終了していますが、まだ使用しています。このような場合、帳簿上、備品が存在していることを明らかにするため、帳簿価額として1円を残すように、前期の減価償却費を計上します。この1円のことを備忘価額といいます。当期は、問題文にあるように、減価償却は行いません。つまり、仕訳は不要ということになります。

## 第 148 回 解 説

### 6. 貸倒引当金の設定

決算整理前残高試算表の受取手形と売掛金の残高から、貸倒見積額を計算します。貸倒引当金勘定の残高が貸倒見積額になるように、差額補充法で不足分を繰入れます。

(借) 貸倒引当金繰入	2,400	(貸) 貸倒引当金	2,400
-------------	-------	-----------	-------

貸倒見積額： $(¥410,000 + ¥350,000) \times 1\% = ¥7,600$

貸倒引当金繰入： $¥7,600 - ¥5,200 = ¥2,400$

### 7. 水道光熱費の見越し

未払水道光熱費は、貸借対照表では未払費用と表示します。

(借) 水道光熱費	7,000	(貸) 未払水道光熱費	7,000
-----------	-------	-------------	-------

### 8. 支払利息の繰り延べ

前払利息は、貸借対照表では前払費用と表示します。

(借) 前払利息	2,000	(貸) 支払利息	2,000
----------	-------	----------	-------

### 9. 受取地代の繰延べ

決算整理前残高試算表の受取地代は、翌期 1 月分を含む 13 ヶ月分の金額であるため、1 ヶ月分の受取地代を繰延べます。また、前受地代は、貸借対照表では前受収益と表示します。

(借) 受取地代	40,000	(貸) 前受地代	40,000
----------	--------	----------	--------

前受地代： $¥520,000 \times \frac{1\text{ヶ月}}{13\text{ヶ月}} = ¥40,000$